

## インシデント報告・事故報告の公表について(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

伊賀市立上野総合市民病院では、地域の方々に安心して医療を受けていただくために、医療安全の推進に日々積極的に取り組んでいます。その一つに、インシデント報告・事故報告の集約・分析・改善策の検討があります。医療の透明性を高め、公的病院として市民等に説明責任を果たすとともに、医学的に的確な情報を提供することにより、事故の再発防止を図る事を目的に、平成26年度1年間のインシデント事例・事故事例の発生状況について伊賀市立上野総合市民病院医療事故等の公表基準に沿って公表します。

### 1. 用語について

#### ①インシデント(ヒヤリ・ハット)

誤った医療行為などが患者さまに実施される前に発見されたもの、あるいは誤った医療行為などが実施されたが、結果として患者さまに影響を及ぼすに至らなかったものをいいます。

#### ②アクシデント(医療事故)

医療行為の中で患者さまに傷害が及び、既に損害が発生しているものをいいます。不可抗力によるものや患者様自身による自傷行為なども含まれます。なお医療従事者の過誤、過失の有無は問いません。

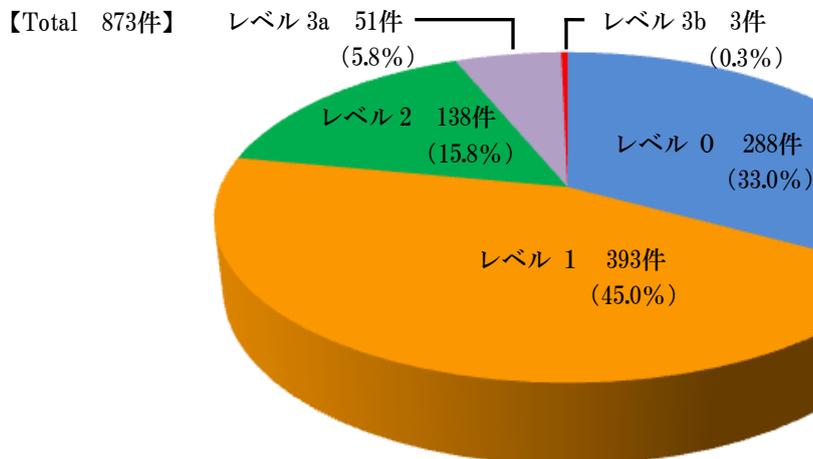
### 2. 医療事故等のレベル区分

分類	患者への影響度	内容
インシデント	レベル0	間違ったことが発生したが、患者には実施されなかった。
	レベル1	間違ったことを実施したが、患者には変化がなかった。 * 何らかの影響を与えた可能性は否定できない。
	レベル2	処置や治療は行わなかったが、観察強化が必要 * バイタルサイン軽度変化、安全確認のための検査等を施行
	レベル3a	簡単な処置や治療を要した。 * 消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与 チューブの再挿入、造影剤を伴わないレントゲン撮影
アクシデント	レベル3b	濃厚な処置や治療を要した。 * バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術 入院日数の延長、外来・入院患者の骨折等を含む
	レベル4	事故により長期にわたり治療が続く、または障害が永続的に残る。
	レベル5	事故が死因となる。

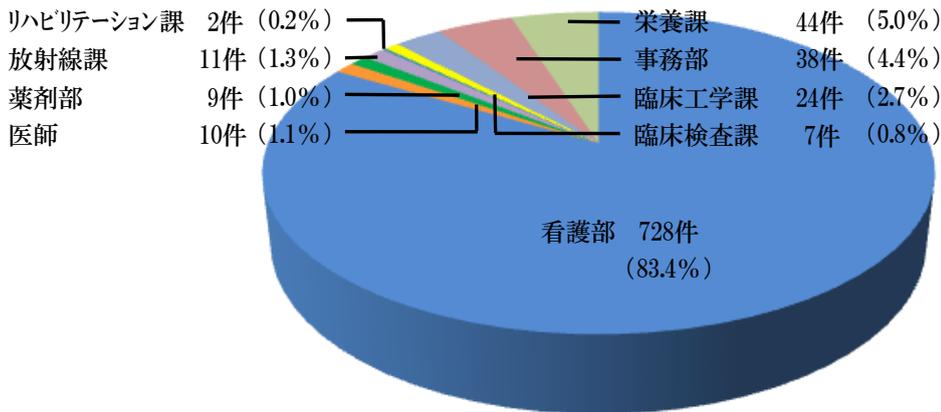
### 3. 発生の状況について

平成26年度のインシデント及び医療事故事例の報告は873件、前年度より269件の増加でした。

### 4. レベル別 報告件数



## 5. 職種別報告件数



## 6. 代表的な事例及び再発防止策

### レベル0 (288件)

- 血圧200mmHg 以上でニカルジピン注0.5A静脈注射の指示あり。指示確認し10mg/Aの0.5Aを投与しようとした。通常は2mg/A 0.5Aを投与。ダブルチェックにより投与回避した。

#### 【再発防止策】

夜間用ストック薬としてニカルジピン注 2mg/A と 10mg/A を常備している。前者はショット、後者は点滴静注で使用。10mg/A に『点滴静注用』と記載し常備することとした。

### レベル1 (393件)

- 17時から投与予定の注射薬を準備中、ロセフィン静注用が不足、メロペン点滴用が余っていることに気づいた。メロペン投与のところ、ロセフィンを投与した。

#### 【再発防止策】

医療安全News Letter を発行。マニュアルの徹底・遵守を啓発。注射を混合する空間の整理整頓を指導した。

### レベル2 (138件)

- 経管栄養注入中の患者。ミトンを外しにEDチューブを抜去。
- 腸閉塞の患者。消化管内容の吸引、減圧を目的とするロングチューブの三方活栓が閉ざされていた。

#### 【再発防止策】

チューブ取り扱いマニュアルを作成した。

### レベル3a (51件)

- 呼吸器のアラーム音で訪室すると、低換気でアラーム鳴っており、気管チューブが抜けかかっているところを発見。

#### 【再発防止策】

チューブ取り扱いマニュアルを作成した。

### レベル3b (3件)

- リハビリ目的で入院の患者。病室入口付近で膝折れ状態でしゃがみこんでいた。「尻もちをついた」とのこと(転倒)。  
⇒左大腿骨内上顆部骨折

- 結腸癌、食欲不振・倦怠感が強く入院された患者。排尿のためベッドから降りる際、足がすべって転倒。物音で看護師が発見。左股部を打撲。⇒左大腿骨頸部骨折

#### 【再発防止策】

患者の状態に応じたアセスメントは実施していた。安全対策について検討し、『てんとうむし』という早期に患者の動きを察知できる対策機器を導入した。

- 慢性閉塞性肺疾患末期患者。リザーバーマスクでの呼吸管理においてSpO<sub>2</sub> 90%維持の指示あり。SpO<sub>2</sub> 97%であったが投与酸素量を減量せず。CO<sub>2</sub>ナルコーシスによる意識レベル低下発現した。4時間後に回復した。

#### 【再発防止策】

スタッフに対し、慢性閉塞性肺疾患の病態や治療・管理について再教育を行った。